

池田市民記者が行く!

市民が池田市の魅力をレポートする
「市民記者」として、地元・池田の
情報を発信します。

今月の市民記者
仲田 敦子さん

昨年から市民記者に
参加。リハビリ病院に勤
務し、本を読むのが好き。
池田の魅力を作り出すき
まざまな人たちの声を伝
えています。



取材先

池田分かち合いの会・ひかり

「優しい人が優しい人のまま生きられる社会」をめざして

コロナ禍で自死を選ぶ方が
増えているといわれます。
「池田分かち合いの会・ひ
かり」さんの定例会を見学
させていただきました。

代表の植村ヨシ子さんが、
長女の摩訶さんを21歳のと
き自死で亡くされ、七回忌
を終え、北摂に遺族の思い
を分かち合う集まりがない
ことから、2018年5月
に設立されました。第2土
曜日と第3土曜日に
池田で定例会があります。

初めて参加した方は緊張
されていたようですが、皆
さんが思いを込めて体験を
語られることで、背中を押
されたように話し始められ
ました。

参加者の方が最初に気
遣ったのは、今の体調のこ
とでした。それぞれ感じて



代表の植村ヨシ子さん

いることをやわらかな語り
口で伝えます。すると初参
加の方はうなずき「じゃあ、
今まで持ってた、つまらん
信念を廃棄するようになり
ます。勇気をいただきました」
と言われました。その後、
笑い合う場面もありまし
た。また話す気にはなれな
いけれど、聞くだけで癒や
されるという方もいました。

皆さん、全身でお互いの
話を聴いています。「アド
バイスはしません。ご自分
で気づくことです」と植村

さん。そのとおりの過程で
ついて学びました。選択肢
はある、多様な考え方に
出会うのが大事なようです。

後日、会が主催された、
虐待を専門とするルボライ
ター杉山春さんの講演会
「自死は向き合える」に参
加しました。

「自死は「追い」まれた死」
であり、所属感が失われ、
誰かの負担になっていると
思うことが重なるという前
提があるといわれています。
科学的な知見をもとに、社
会を変えていく必要性に

植村さんたちが大切にさ
れているのは「人と人はつ
ながっていると感じてほし
い」「一人で抱え込まない」
です。皆さん悲しみ、苦し
みを抱えておられるのに、
包み込まれるような、あた
たかな雰囲気の家でした。
めざしている「優しい人が
優しい人のまま生きられる
社会」は、誰にとっても生
きやすいはず。皆さん
と一緒に考えていきたいで
す。



講演会のような様子

お問い合わせ

池田分かち合いの会
・ひかり
☎080-3858-2954